



特集

安曇野のミライ

ずっと住み続けられるまちへ



壮大でどこか遠い世界の話と思いがちなSDGs。しかし、一つずつ達成することで身近なミライを救うきっかけになります。今月号では、持続可能な安曇野市を目指して、取り組む力を特集します。

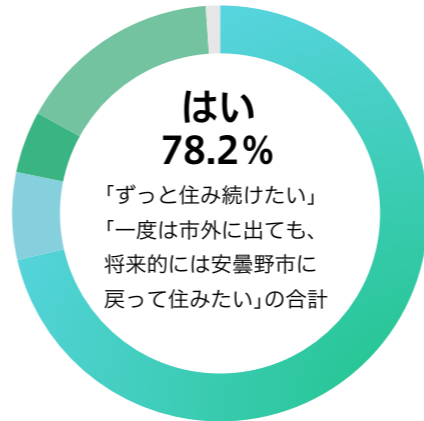
誰

一人取り残さない。持続可能でよりよい社会を目指す世界共通の目標として2015年に国連で採択されたSDGs。「貧困をなくそう」「陸の豊かさを守ろう」などの17のゴールを掲げ2030年までに持続可能な未来を達成することを目指しています。

中間年となった昨年の12月には、国が推進の中長期的な国家戦略とする「SDGs実施指針」を4年ぶりに改定。「持続可能な経済・社会システムの構築」「誰一人取り残さない」包摂社会の実現」など五つの重点事項を掲げ、取り組みの強化を促しました。これらの目標は、各国政府の取り組みだけでは達成が困難です。自治体や企業、学校などから一人一人に至るまで行動が求められている点がSDGsの大きな特徴です。

市が令和4年度に行った市民意識調査で、「今後も安曇野に住み続けたい」と答えた人は78.2%、「安曇野に愛着を感じている」と答えた人は87.3%でした。この背景には、安曇野の歴史や郷土を愛し、未来につなげたいという思いがあるのかもしれない。この先も安曇野の豊かな自然や文化そして産業を次世代につなげ持続可能なまちであり続けるためには、一人一人ができることを考え行動することが安曇野のSDGsにつながります。

これからも安曇野市に住み続けたいですか？



回答数839人

若い世代の定住傾向が増加！

令和5年2月に行った市民意識調査の結果、約8割の人が安曇野で定住したいと回答しました。年代別では、18～29歳の若い世代で「一度は市外に出ても、将来的には安曇野市に戻って住みたい」が40.0%と各年代で最も高い結果となりました。

安曇野のここが好き！

- 1位 自然・住環境 (63.7%)
- 2位 知名度・ブランド力 (26.3%)
- 3位 医療・福祉支援の充実 (24.7%)

安曇野市に愛着を感じる理由で、全年代で6割以上が安曇野の自然環境と調和した住環境を選択。知名度・ブランド力は30～60代、医療・福祉支援の充実は60代以上が多い結果となりました。



いただきます！元気な声が響く子ども食堂。食事やレクリエーションを通じて普段、孤食をしている子どもたちやおなかをすかせた子どもたちも居場所を作りたい。

あづみのcocorocafeは、2月12日に子ども食堂を開き、約60人の親子がレクリエーションや折り紙、工作などで交流した後、昼食を楽しみました。この日のメニューは、安曇野調理師会特製の豚肉すき焼き弁当。パレンタインデー前ということでハートの折り紙とチョコレートも添えられました。年4回子ども食堂と月1回フードパントリーを行っているあづみのcocorocafe実行委員長の黒岩さんに話を聞きました。

子どもや親子の居場所として

令和3年6月に実行委員会を立ち上げ、活動を始めました。子ども食堂では、食事の提供だけでなく、

つながり、笑顔が生まれる、居場所をつくる

レクリエーションや豊科高校のボランティアによる学習支援、子育て相談を行っている。食事をきっかけに何気ない会話から参加者同士のつながりが生まれ、悩みの解決などに少しでもつながればいいなと思っています。始めたころはコロナ禍だったのでお弁当を配るだけでしたが、ようやく交流ができるようになり、子どもたちの声が聞けてうれしです。

笑って暮らせるように

子ども食堂は開いていることが大切です。生活に困っていると一言でも明確に線を引きません。誰もが気軽に立ち寄れる存在としてあり続けることが大切だと思います。市内には私たちを含めて五つの団体が子ども食堂を行っています。お互いに情報交換を行い、良いところを取り入れながら子どもたちが安心して笑顔で生活できる居場所を一緒に作ってきたいです。

coは子ども、coは高齢者、roはroot for(応援する)から。すべての人がお互いに応援し合う場という意味を込めています。



あづみのcocoroカフェ 黒岩 一雄さん

笑顔で子どもたちを迎えるあづみのcocoro カフェ実行委員とボランティアスタッフの皆さん

☎cocoro カフェ実行委員会事務局
社会福祉協議会豊科支所
Tel.73-7143

